

ERで使う抗菌薬・抗ウイルス薬

一般名（商品名）	作用機序	代表的な投与方法・投与量	作用発現・持続時間	薬価（先発品）
静脈注射				
βラクタム系（ペニシリン系）				
アンピシリンナトリウム （ピクシリン®）	細胞壁の合成阻害 （βラクタム系抗菌薬）	2g を 4～6 時間ごと	<ul style="list-style-type: none"> 発現：投与終了時 持続：半減期 1 時間 	■ 1 瓶・678 円
アンピシリンナトリウム・ スルバクタムナトリウム （ユナシン®）	細胞壁の合成阻害 （βラクタム系抗菌薬）	3g を 6 時間ごと	<ul style="list-style-type: none"> 発現：投与終了時 持続：半減期 1 時間 	■ 3g/ 瓶・656 円
タゾバクタムナトリウム・ ピペラシリンナトリウム （ゾシン®）	細胞壁の合成阻害 （βラクタム系抗菌薬）	3.375g～4.5g を 6～8 時間ごと	<ul style="list-style-type: none"> 発現：投与終了時 持続：半減期 1 時間 	■ 4.5g/ 瓶・1,434 円
βラクタム系（セファロスポリン系）				
セフトリアキソンナトリウム水和物 （ロセフィン®）	細胞壁の合成阻害 （βラクタム系抗菌薬）	2g を 24 時間ごと	<ul style="list-style-type: none"> 発現：投与終了時 持続：半減期 7～9 時間 	■ 1g/ 瓶・380 円
βラクタム系（カルバペネム系）				
メロペネム水和物 （メロベン®）	細胞壁の合成阻害 （βラクタム系抗菌薬）	1～2g を 8 時間ごと	<ul style="list-style-type: none"> 発現：投与終了時 持続：半減期 1.1 時間 	■ 0.5g / 瓶・691 円
非βラクタム系（グリコペプチド系）				
バンコマイシン塩酸塩 （バンコマイシン）	細胞壁、RNA、細胞膜の 合成阻害	500mg～1.25g を 12 時間ごと （症例ごとに調整が必要）	<ul style="list-style-type: none"> 発現：投与終了時 持続：半減期 4～6 時間 	■ 0.5g/ 瓶・1,022 円
非βラクタム系（マクロライド系）				
アジスロマイシン水和物 （ジスロマック®点滴）	蛋白合成の阻害	250～500mg を 24 時 間ごと	<ul style="list-style-type: none"> 発現：投与終了時 持続：半減期 10～60 時間 	■ 500mg/ 瓶・2,126 円
非βラクタム系（キノロン系）				
レボフロキサシン水和物 （クラビット®点滴）	DNA 合成の阻害	500mg を 24 時間ごと	<ul style="list-style-type: none"> 発現：1 時間 持続：半減期 4～8 時間 	■ 500mg/ 瓶・3,556 円
内服				
βラクタム系（ペニシリン系）				
アモキシシリン水和物 （サワシリン®）	細胞壁の合成阻害 （βラクタム系抗菌薬）	250～500mg を 1 日 3 回	<ul style="list-style-type: none"> 発現：1.67 時間 持続：半減期 1 時間 	■ 250mg/ 錠・10.8 円
クララン酸カリウム・ア モキシシリン水和物 （オーゲメンチン）	細胞壁の合成阻害 （βラクタム系抗菌薬）	250mg を 8 時間ごと	<ul style="list-style-type: none"> 発現：1.5 時間 持続：半減期 2～4 時間 	■ 250mg/ 錠・45.7 円
非βラクタム系（マクロライド系）				
アジスロマイシン水和物 （ジスロマック錠®）	蛋白合成の阻害	250～500mg を 24 時 間ごと	<ul style="list-style-type: none"> 発現：2 時間 持続：半減期 10～60 時間 	■ 250mg/ 錠・205.6 円
非βラクタム系（キノロン系）				
レボフロキサシン水和物 （クラビット®錠）	DNA 合成の阻害	500mg を 24 時間ごと	<ul style="list-style-type: none"> 発現：1 時間 持続：半減期 4～8 時間 	■ 500mg/ 錠・199.8 円

*注意：投与量は腎機能正常例の場合。バンコマイシンは血中濃度のモニタリングをしながら調整することが必要。

（文献 1～3 を参考に作成）

引用・参考文献

- 1) 厚生労働省. 薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について（令和4年6月17日適用）. <https://www.mhlw.go.jp/topics/2022/04/tp20220401-01.html> (2022-06-20)
- 2) 青木眞. レジデントのための感染症診療マニュアル. 第4版, 東京, 医学書院, 2020, 58-72.
- 3) 岩田健太郎. 抗菌薬の考え方, 使い方 ver.4. 東京, 中外医学社, 2018, 562p.